

大鹿リニア騒動記～リニア工事最前線の村で～

前島久美（大鹿の十年先を変える会）



「まだ同じことをやっている」久々に迂回ルートの土地契約に伴い発言者として出席した村のリニア連絡協議会の様子にため息がでた。でも想像通りだけれどね！と思う自身も、なんだか哀しい。

この日は、冒頭に飯田市から説明があった。飯田市のリニア駅予定地周辺で立ち退きの必要がある200軒余りの代替え居住地整備に「大鹿村の排出土」の使用許可を求める内容だった。それに伴い、ダンプ車両の通行予定台数と松川インター大鹿線（通称小渋線）の運行仕様や期間についての説明があった。説明後、進行役を務める会長の引地龍也さん（自治会長会会長であり議員）は「ここで意見がでなかつたら了承を得たことになりますが、いいですか」と言い放った。資料は当日配られ説明されたもので正直、その場で決めるにはあまりに大きな計画だった。説明を受けている委員は自治会や団体の代表であり決定権はないはずである。傍聴席からは「今日決めるのはおかしい」と意見がでた。協議会の規約では意見集約の場であるとうたっていながら、意見集約の時

間は皆無。相変わらず「協議会」にあらず「説明」の場だ。どうしてしまった大鹿自治。もしかしたら大鹿村にはそんなものは元々存在しないのかもしれない・・・だったら作るしかない。

前代未聞！大鹿自治

大鹿村と JR 東海が結んだ確認書に「用地に関しては、村が主体となり地主からの承諾を得るものとする」という一文がある。弁護団の O 先生は「前代未聞」と言った。彼は環境問題の訴訟を多く手がけてきたベテランの先生だが自治体が一事業者に便宜を図る内容をもった確認書を見るのは前例がないという。参考までに長野県と JR 東海との確認書の内容も見てみたが、確かに技術的な内容しか盛られていない。明らかに村の越権行為だった。

大鹿村における迂回ルートの紛争経緯

2016年10月19日村と JR 東海は工事車両用通行等に関する確認書を結んだ。この確認書は地権者（筆者の父）の預かり知らないところで作成されたものであり、内容は JR 東海へのペナルティーなしの紳士協定。その第2条2項では「JR 東海は、左岸ルートを設置し、（中略）ただし、左岸ルートが運用供用されるまでは国道152号を利用するものとする」とされ、また第3項では「ルート上の用地に関しては、村が主体となり地主からの承諾を得るものとする」とある。いわば、大鹿村が所有者の承諾を得ずに、他人物賃貸借の貸主となつた。

私達は村に謝罪を求めたが無視され、「迂回ルートは全村民の願い」と事実と異なる大義を押し付けられた。その後1年間は村を介して JR 東海と複数回書面でやり取りをし、面談を繰り返した。地権者側から確認書に基づき環境保全に重点をおいた契約書（案）も提出した。しかし JR 東海の姿勢は始終「地権者提案のルールには従わないが土地は貸してほしい」といった非常識なものだった。

2017年3月 弁護団結成 2018年11月 公害調停の申請

2019年5月 公害調停 不調にて打ち切り 調停を打ち切ったのは JR 東海側であるにも関わらず「土地の新貸借契約は結びたい」とし協議続行。

2019年9月30日 契約締結

迂回ルート交渉を経験して

私は2016年の確認書の締結以降、交渉の窓口を担当してきた。父の土地が無断で迂回ルートの候補地になり、黙っていられなかつた。村のリニア対策委員会に参加し、それまでの経緯を把握しているということもあったので父の変わりに交渉役に手を上げた。対策委員会でも村のやり方に辟易していたが、今度は地権者代理（2019年8月から地権者）として関係を持つ中で、一番嫌悪を感じたのは変わらず「村のやり方」だった。更に村議会のずさんさも体験することになる。大鹿村の残念なところは、問題は「リニア」（JR 東海）ではなく、「村」にあるということだ。ここでつまずいてしまう事が毎度の事ながら情けない。本来であれば住民側に立ってくれる人たちが、すべて向こう側にいるではありませんか。住民としては不安を通り越して、もはや恐怖すら感じる日々。世界で紛争は絶えないけれど、人は怖いから闘うんだな、と経験して思う。不安と恐怖を取り除けたらもっと世界は和やかになるのだろう。

ともあれ今後、迂回ルート問題はリニア沿線各地で少なからず問題として浮上するでしょう。大鹿村では、「村のやり方」に問題が大きく、余計なエネルギーをそがれましたが今後、リニア関係で交渉に直面した時の一つの参考になればと思います。大鹿村で地元住民（個人）とJR 東海が結んだ契約書は裁判で言ったら「勝訴」とは言えないのですが、感触としては「痛み分け」くらいでしょうか。契約書全文は実家の旅舎（りょしゃ）右馬允（うまのじょう）のホームページで公開しています。必要であれば交渉経験をシェアする事も可能です。お気軽にお問い合わせください。（2019年12月23日）

おまけ ～リニア工事最前線の村 あるある流行語2019～
やっている事がずさんな事を指して「まるでJR 東海だね」
言う（やる）べき事を言わな（やらな）かった事（プロセス軽視）を指摘
「大鹿村の行政ですか」

※リニア中央新幹線計画…JR 東海が進める鉄道計画。品川、名古屋、大阪を結ぶ計画。当初、工費はJR 東海の全額負担だったが国も財政投融資をおこない後押し。公共的事業。JR 東海は頑に2027年の品川名古屋間の開業を掲げているが全体の工事計画に遅れが見られる。

※大鹿村とリニア計画…大鹿村は、長野県南部に位置する南アルプスへの玄関口。人口約1000人の村。手つかずの自然のゆりかごの中で豊かな生物多様性を誇り、それを生かした暮らしや文化が育まれてきました。しかし、リニア計画では本坑を含め坑口は4カ所、変電施設、橋梁、送電線鉄塔10基が建設

予定。村内を走行するダンプ車両はピーク時で約1700台予定とされています。行き先のない掘削残土は村内の河川敷を中心にすでに置かれ始めています。現在国内で予測される大地震（南海トラフ地震）の震源地は大鹿村と予測され、自然災害は想定内の村で大規模公共事業の有り様が注目されています。

※ 前島久美 大鹿村ネイティヴ。上蔵（わぞ）地区在住。地元のもったいない野菜の個配企画「いつでも送っていいよ大作戦 in 大鹿」事務局。ヨガ講師、自然植物ガイド、里山散策のコーディネート・イベント企画・運営を担当。大鹿村のあまねく自然解説者を目指す。趣味はいもむしの観察、山登り。